

平成 24 年度

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500105		
法人名	株式会社 文化タクシー		
事業所名	グループホーム ポランの広場いなせ		
所在地	岩手県奥州市江刺区稲瀬字水先629		
自己評価作成日	平成24年12月5日	評価結果市町村受理日	平成25年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0391500105-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0391500105-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 24年 12月 14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●普段と変わらない体調で毎日を過ごしていただくため、特に健康管理に気を付けています。飲み忘れ、飲み間違いのない正しい薬の管理、さらには利用者の定期受診時に、日常の様子、測定値、変化等を主治医に報告し、普段から医療との連携を図っています。利用者から腹痛の訴えや風邪ひき等の体調不良はほとんどなく、皆、元気で過ごされています。

●利用者と共に制作の季節を感じられる貼り絵及び行事内容に職員の創意工夫が見られます。

●外に開かれた施設を目指し、ホームページ、ブログ、会報等様々な媒体で施設内の様子、契約内容、料金、空き状況、行事内容、出来事、アンケート結果、職員紹介等可能な限りの情報を公開しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

奥州市江刺区、金ヶ崎町、北上市の中間に位置し、すぐ近くを東北新幹線の高架橋が延びている。「普段と変わらない体調や環境で過ごして欲しい」と、看護職員を複数配置して健康管理に特に力を入れている。会報やパンフレットなどは、見やすく判りやすいように工夫して作られている。ホームページやブログを通して、広くホームの様子が運営などを公開するなど、地域に開かれたホームを目指している。小規模多機能ホーム共々地域密着型の事業所として地域交流に積極的に取り組むこととしており、今後、当地域の認知症理解のに向けた支援を始め、事業所機能を活かした地域貢献が期待される。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム ボランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	考え、行動することがスキルアップすることであると捉え、朝夕のミーティングで皆意見、提案をして実践につなげている。	開設当初、管理者等が主となって理念を作成し、玄関などに掲示して、職員の意識の高揚に努めている。職員会議などを通じ理念共有に努めたいとしている。今後、職員会議などを通じ理念共有に努めたいとしている。	理念は、ホームの目指すサービスのあり方、立ち戻る根本的な考え方を示すものであり全職員が方向性を合わせて取り組む事が大切である。理念共有の機会を設け、その実践を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は地区自治会から広報誌等をいただいたり、行事や交流会に参加の呼びかけをいただいている。夏祭りでは家族以外からの参加をいただいている。地域とのつながりは時間をかけて構築していきたい。	開設に当たり地域説明会や見学会を開催したほか地域広報紙に載せてもらうなど地域の理解・交流を深めてきている。普段の散歩での挨拶や幼稚園児との交流も行なわれてきておりその理解の深まりが感じられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通して、認知症についての理解を深めていただいております。今後についても認知症や介護保険制度、その他についても疑問・質問・相談に柔軟に対応していきたいと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、話し合いで構成員様からは特に防災・事故について事例を交えて助言をいただき、事業所内でそれを周知させている。	隔月に開催し、利用者状況や運営状況などの話し合いが行なわれている。委員からはとりわけ、熊の出没等の被害や介護事故(徘徊)等へのアドバイスや提言を受け、ケアに繋げるなど活発有意義な会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営上のことで、問い合わせ、相談をしてその都度ご指導をいただいている。また相談員を定期的に受け入れ、助言を頂くことで協力関係を築いている。	本所の水沢区の担当者と連携しており、日常は電話やメールでやり取りをしながら連絡、相談をしている。地域包括支援センターは江刺区の支所と連携している。両者とも円滑で良好な関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び玄関の施錠は行っていない。今後も身体拘束をしないケアに取り組むとともに学ぶ機会を持ちたいと考えている。	ホームという場所で起こりやすい拘束の事例等を確認しながらケアに当たっている。施錠は、防犯のため夜間のみで、昼間はしていない。今後は、「拘束しない」ではなく「人格尊重」を基本に据えたケアに努めたいとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今までも虐待は皆無であり、今後も防止に努めていくため、学ぶ機会を持ちたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修を活かし、成年後見制度についてや日常生活自立支援について学ぶ機会を持ちたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退所の条件、利用者の権利、事業所の内容、改定時には例をあげ、なるべく分かりやすく説明し、理解・納得していただける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や外部評価のアンケート調査から意見、要望を抽出し、運営に反映させている。	利用者アンケートを活用したり、訪問時等に、直接間接に意見などを得るほか、会報やインターネットなどで広く情報提供を行い、いつでもどんな方法でも、意見等を得ることができるよう、雰囲気や環境づくりに工夫を重ねている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕のミーティングと職員全体会議において、意見や提案を聞き、必要なことと優先順位を決め、反映させている。	毎日のミーティング、毎月の職員会議を通して意見等を検討するほか、運営主体の代表が年数回は職員と話す機会をつくっている。冬季(特に年始年末)の除雪作業が大変という意見をもとに手当を出すようにした事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、特に介護職員処遇改善金を効果的に使った給与水準の上昇に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は特に法人外部の研修を受ける機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区単位の連絡協議会に出席してネットワークづくりや勉強会に参加し、自施設のサービス向上に反映する様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族が見学・相談にみえられた都度、疑問・不安・要望等を聴き取り、回答できないものに対しては後日回答し、安心感をもっていただき、信頼していただける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話においての相談でも困っている事や疑問・質問等に出来るだけ答える様にしている。実際に来所して会うこと、見ていただくことが不安の解消につながるという認識で見学をすすめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅でのサービスを受けている中で、または退院後直ぐの入居となるので本人・家族との面談を重視するとともに他事業所・病院からの情報を参照し、当初のサービスを決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬い、同じ場所で過ごしている者同士として共存できる環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の現状並びに今までの本人と家族の関係の経過を考慮しながら、共に本人を支えていく関係を築いていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に本人の情報把握に努め、家族や知人の面会時には居室で過ごしたり、一緒に出かけてゆっくりする時間を設け、また通院時の対応は原則家族にお願いし、馴染みの人との繋がりを大切にする様にしている。	高齢化や意欲低下等もあり、馴染みは墓参りや家族や近隣との面談などと、あまり多くはない。普段から、寄り添いや声がけを通じて馴染みへのヒントを得るべく努めている。新たに床・パーマ屋さんとの馴染みが出来つつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の行動を把握し、出来るだけ気の合う同士が交流する様に配慮し、時によっては全員が和める場を提供する工夫をしながら、円滑に過ごせる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	築いてきた関係を大切に、いつでも相談に応じることができる様に心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の言動を経過表と業務日誌に記録し、希望、意向の把握に努めるとともに日常的に接する中で本人の希望を抽出するようにしている。	思いや願いを伝えられない利用者も居られることから、普段の生活の中で、随時の声かけや寄り添いを通じて、その笑顔や態度から思いなどを推し量りながら、そのケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントシート活用や入居前の情報が把握できるよう努め、コミュニケーションの中から情報を収集し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状況観察で、個々の様子や変化等の申し送りをを行うことにより、情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では毎朝夕のミーティングで、家族とは来所時及び電話連絡時に話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	管理者・ケアマネ・計画作成担当者が主となり、毎月のモニタリングを行ない、定期的あるいは随時の見直しを行っている。今後は、他の職員もモニタリングに関わるなど、関わり方を考えたいとしている。	職員のスキルアップや後継者育成等の意味合いを含めて、モニタリングに積極的に職員に参加してもらったり、利用者ごとの担当を設定するなど、職員皆で関るケアプランづくりを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を作成して、日々の様子や変化等を記録し、職員間で情報の把握と共有を行い、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員は利用者が笑顔になれるよう、日々創意工夫、試行錯誤している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	稲瀬地区を回り、調べ、また運営推進会議において情報をいただき、地域資源を把握、身近なところでは理美容、保育所、産直、運営推進会議構成員様に支援していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師が本人の様子を記録、報告書を作成。かかりつけ医に報告している。様子に変化が見られた場合は連携をとり、適切な医療を受けられるよう支援している。かかりつけ医からのプラン提出要望にも応えている。	かかりつけ医の大部分が県立江刺病院となっており、通院は家族の付き添いを基本にしている。看護師が利用者の日常の健康管理に気を配り、病院や家族との連携、連絡を適切に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化が見られる場合、適切な連絡、報告により、適切な対応が取れる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者が来院し、病院への情報提供、または病院から退院予定等の情報をいただくなど良好な関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用前に家族には医療的処置が必要になった場合の当事業所でできること、できないことを説明し、当事業所に対応できないケースが生じた場合には他の資源の活用、他の事業所情報を提供している。	重度化については、入居時に医療的処置を要する段階（食事が取れなくなった時点など）が事業所としての対応の限界であることを説明している。また、終末期については、現在のところ明確な方針は立てていないが、今後関係機関とも話し合うこととしている。	看護師も配置されていることから、小規模多機能ホームと連携し、地域における在宅看護支援や在宅での終末期対応について内外で論議を進める機会を持つことが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的、全ての職員とはいかないが、救命講習を受講、次の講習まで間隔が開かない内に受講できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を含めた消防訓練を全職員を対象に行っている。消防署様に評価をいただき、地域の人たちにも立会をお願いするとともに、結果を文書で報告している。備蓄は水、食料、簡易トイレ、暖房用品等。	消防署の立会いで定期的に訓練が行われ、職員の消火訓練やAED研修なども行われている。今後は、推進会議や消防機関の意見等を得ながら、近隣に依頼する具体的な協力内容について、検討したいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、職員の何気ない言葉遣いや態度の一つひとつで不穏になる可能性がある事を認識し、配慮のある支援を行っている。	社会の先人として尊重し、地域伝統の踊りや小正月行事などを教わっている。声かけは、なれなれしくならないよう、他人行儀にならないよう、注意し合いながら、「さん付け」を基本にし、尊厳・プライバシーに心している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己希望を伝えることができる声かけ(Whatか Yesまたは No)、接し方に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ペースを大切に、希望にそって支援することを大切にしているが、共同生活でははじめやルール的重要性や一定の決まりごととも必要であると考えている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段とは違った気に入った服装での外出支援やひな祭り等の特別な行事で化粧できる場を提供している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態、希望を確認して準備や、片付けをお願いしている。食事に関しては刻みや柔らかか食、おかゆ等利用者に適合した内容にしている。現在は好き嫌いの訴え、実績ともないが、代替えメニューも考慮する。	献立は食べ残し調査や嗜好を把握し職員が作成し、副食調理は外部委託している。今後は、利用者の参加できる場面(味見など)を見出し楽しむ工夫をしていきたいとしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を記録し、一人ひとりの基準の数値を把握できる様にしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の有する能力に合わせて、声掛けや洗面所への誘導を行っている。全介助の場合もある。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターン、習慣を活かしてオムツを使用している方でも、トイレ誘導を行っている。またはナースコールを使っただけ、トイレでの排泄を介助している。ポータブルは身体状況による使用となる。	利用者それぞれに、小まめな排泄の見守り・記録に努め、職員皆で共有しあっている。排泄の自立は生活への自立につながるの考え方から、オムツ等使用者についても、極力、トイレへの誘導、排泄に心している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、記録を把握して水分の摂取量や運動等で便秘予防に努める様になっているが、改善の様子がない場合には下剤での調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関しては曜日、時間帯、順番等のルールを事業所が決め、対応している。	利用者ごとに週に3回を目安に、午前中の時間帯で入浴をしている。利用者から変更等の希望が出されないが今後は、利用者それぞれに希望を聞くなどして、対応を考えたいとしている。	入浴は、利用者のこれまでの生活習慣や希望に合わせて対応するのが基本であり楽しみのにも繋がる。今後は、利用者の希望を聞きながらの入浴対応を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンや希望、その時の状況に応じた休息の提案を行い、くつろいで頂ける様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個別にどのような目的の薬を服用しているのかについてやまたその副作用についての理解を深め、服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書や歌、テレビドラマやスポーツの観戦、たこ焼き作りや体操、踊り、清掃、洗濯物の整理、食器後片付け等能力に応じて出来る事への支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や初詣等の季節を感じて頂ける外出やドライブ等の計画を立て行っている。またその日が外出日和であれば周辺の公園散策や周辺の散歩を支援している。	利用者の高齢化等もあり遠出は少ないものの、展勝地での花見や近くの神社への初詣など、四季折々の風に触れ、雰囲気を感じるためドライブも兼ねて出かけている。今後も、遠近の外出にはとらわれず、散歩も含め、気分転換のため外出の機会を出来るだけ多くしたいとしてみる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に応じて、お金の所持、使用の支援を家族と話し合いながら行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが希望通りに家族に電話をしたり、取次ぎをして家族や外部との交流関係が円滑に継続出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆が安心して長く居られるように特にホール周辺には、季節を感じられる装飾や利用者作成の貼り絵等の作品、写真等を掲示している。	窓や天井、間取りを含め、清潔で明るく、ゆったりとした生活が窺える空間である。廊下の壁などには、ドライブ等の笑顔の写真や利用者と職員が汗と知恵を出し合った作品が飾られ、楽しい生活が実感される。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで歓談やゲームをしたり、1人でテレビを観たり、新聞雑誌を読む等、自分の時間を持てる様にテーブルの配置等に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談して、馴染みのものや好みものを置く様にして、なるべく落ち着いて過ごせる様に配慮している。	シンプルで清潔感のある居室である。持ち込みの調度品は少ないが、写真を飾ったり、置物を置いたり、個性のある居室も見受けられ、居心地の良いプライベート空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要十分な手すりの設置、理解しやすい様に貼紙をする等、安全に配慮しながら自立支援に努めている。		